

「ヤグラタケ (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「ヤグラタケ」は2つの学名を持つ、非常に珍しい菌類である。

- 1) *Asterophora Lycoperdoides* (無性世代)
- 2) *Nyctalis lycoperdoides* (有性世代)

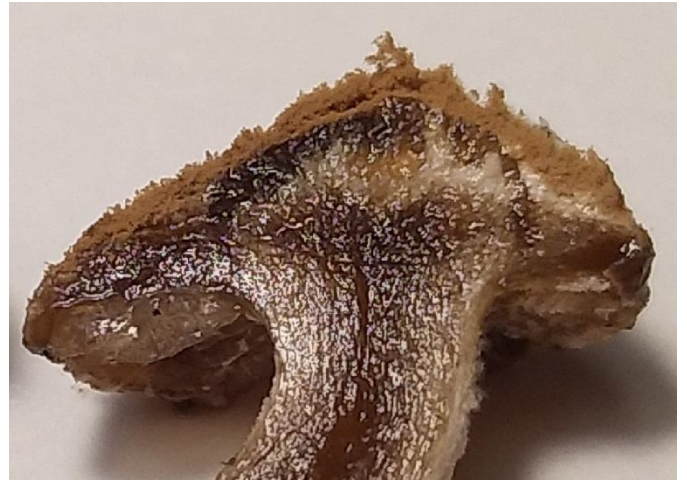
いずれも種小名の *Lycoperdoides* は共通しているが、これは「ホコリタケ属 (*Lycoperdon*) に似ている」という意味のラテン語である。傘の上面に胞子を作る様が、胞子塊を形成する、ホコリタケ属 (腹菌類) のキノコに似ていることに由来する。



1) *Asterophora* は「星のような」という意味で、ヤグラタケが発生したクロハツが、星空のように見えるという意味である。同じような属名は *Astraeus sp.* (ツチグリ) にも使われているが、これは子実体の形状そのものが「星型」をしていることに由来する。

2) *Nyctalis* のほうも「夜」という意味で、やはり群発生している様子が「夜空」を連想させることに由来する学名だ。

2つの学名を持つのは、胞子の作り方が2種類 (2つの世代) あり、それぞれに別々の名称を与えている為である。*Asterophora* のほうは、傘の上面に胞子を作り、無性的に拡散させている状態の子実体をさす。ヤグラタケの場合、圧倒的のこの状態が多く、一般的にはこの学名が載っている。*Nyctalis* のほうは、通常のキノコと同じように、傘の裏側で胞子を作っている子実体を指し、ヤグラタケでは稀な個体といえる。



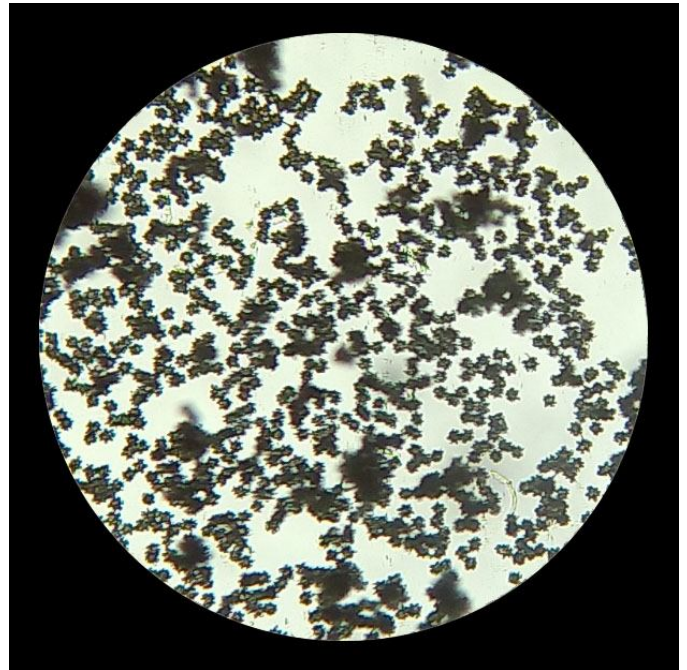
傘を注意深く「縦切り」にして、観察すると、中央の「茎」の部分から栄養分の通り道の細胞が、傘の上



面に集中し、その先端に多数の胞子が形成されているように見える。本来胞子を作るはずのヒダは半透明で、あまり存在感がない。

私は、傘の上の粉末 (胞子) を顕微鏡で観察してみることにした。傘をスライドに軽

く押し付けると、胞子は容易に採取できた。



「ヤグラタケの胞子 (厚膜胞子)」×100

さっそく透過光で観察してみた。キノコの胞子は全縁 (丸い) のものが多いのだが、ヤグラタケの胞子は、星砂のような形状をしていることがわかった。